



2021年度「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」事業 SDGs 講演会を開催

【概要】

令和3年10月27日(水)に、2021年度「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」事業の一環として、佐賀県工業連合会と協同して対面とオンラインのハイブリッドによるSDGs講演会を開催しました。

【本文】

令和3年10月27日(水)、理工学部6号館大講義室にて、2021年度「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」事業の一環で佐賀県工業連合会との協同でSDGs講演会を開催しました。また、本講演会は西九州化学工学懇話会の共催事業にもなっています。

理工学部は、佐賀県工業連合会と協同して「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」を設立し、佐賀県の工業系人材を高度化・グローバル化することにより佐賀地域の工業界・産業界を活性化することを目指して活動してきました。

今年度は新型コロナウイルスの新規感染者数が減少したことを受け、対面参加と同時に感染拡大防止のため、Zoomを用いたオンライン配信も同時に行いました。

参加者は本学理工学研究科の本コンソーシアム事業関係者、佐賀県工業連合会の企業関係者および事務局、本学理工学研究科・理工学部の学生、ならびに西九州化学工学懇話会の関係者の81名でした。

講演会に先立ち、豊田 一彦 理工学研究科長より挨拶がありました。引き続き、経済産業省資源エネルギー庁カーボンリサイクル室・室長の土屋 博史 様より、「カーボンリサイクル政策について」の講演がなされました。カーボンニュートラルやカーボンリサイクルの考え方、関連する企業と経済産業省の支援の状況、世界の動向などについて講演され、その後、大学関係者や学生から多くの質問がなされました。2番目の講演として、佐賀市企画調整部バイオマス産業推進課の前田 修二 様より「市民と共創する資源循環」の講演がなされました。自治体の目線でのゴミ処理などの熱や炭酸ガス循環についての取り組みが述べられ、先駆的な廃棄物の有効活用、特に県内企業の関連する事業が紹介され、参加者から多くの関心が寄せられました。

佐賀県内でも毎年のように水害が発生しており、その根源である地球温暖化対策は喫緊の課題です。真鍋 淑郎 教授らの今年のノーベル物理学賞受賞も、カーボンリサイクルに対する世論の関心を高めています。

講演のために東京から日帰りで参加いただいた経済産業省資源エネルギー庁カーボンリサイクル室の土屋 博史 様と青田 絢子 様、土屋様をご紹介いただいた佐賀県産業労働部新エネルギー産業課長の大野 伸寛 様、第2講師を務めていただいた佐賀市企画調整部バイオマス産業推進課の前田 修二 様をはじめ、参加者の皆様に心よりお礼申し上げます。

本講演会の企画・運営は、大渡 啓介 学部長補佐、佐藤 和也 副学部長によりなされました。



第1講師の土屋様に質問する豊田研究科長



第1講師の土屋様に質問する学生



第2講師の前田様のご講演の様子



閉会の挨拶を述べられた佐賀県工業連合会の吉村正会長